



第49期 第2四半期のご報告

# IR ハンドブック

平成25年4月1日～平成25年9月30日 銘柄コード：9377

**特集** 中期事業計画の取組み状況



Power Supply Business



Maintenance Business



Supplementary Equipment Business

Airport Ground Power



代表取締役社長

山口 栄一

### Profile

山口 栄一（やまぐち えいいち）

昭和30年9月7日生まれ

昭和54年4月	日本航空株式会社 入社
平成19年4月	株式会社日本航空インターナショナル 執行役員 東日本地区副担当（兼）東京支店副支店長 （兼）法人センター長
平成21年4月	同社 執行役員 西日本地区担当（兼）大阪支店長
平成22年12月	同社 執行役員 中国地区総代表（兼）ペキン支店長
平成23年4月	日本航空株式会社 執行役員 中国地区総代表 （兼）中国地区総代表室 北京支店長（兼）北京営業所長
平成25年5月	当社顧問
平成25年6月	当社代表取締役社長（現任） 株式会社エージービー開発 代表取締役社長（現任） 株式会社エージービー関西 代表取締役社長（現任）



エージービー グループ理念

社会から信頼を受ける会社を目指し、  
社会の繁栄と地球環境の浄化保全に  
貢献する

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、緩やかに回復しつつあり、先行きについては、各種の政策効果による企業収益の改善や設備投資の増加傾向が続き、景気回復の動きが確かなものとなることが期待されております。

航空業界においては、円安の定着に伴う訪日旅客の増加等により堅調に推移しているなかで、大手航空会社によるネットワークの拡充、国内マーケットに定着した本邦LCCのシェア拡大など、競争環境が変化しております。

このような状況下、当社グループの当第2四半期連結累計期間の売上高は、動力事業、整備事業、付帯事業それぞれ堅調に推移し、前年同期比59百万円（1.2%）増の51億40百万円となりました。営業費用につきましては、整備事業、付帯事業において原材料費等が増加したものの、動力事業における減価償却費の減少、人件費の抑制等により、前年同期比16百万円（0.3%）減の47億29百万円となりました。

この結果、営業利益は前年同期比76百万円（22.7%）増の4億10百万円、経常利益は前年同期比1億13百万円（36.8%）増の4億22百万円、当四半期純利益は前年同期比1億43百万円（148.3%）増の2億40百万円となりました。

現在、当社グループは、「収益基盤の強化と事業領域の拡大」を基本方針とする中期経営計画に取り組んでおります。本計画は、ここ数年進めてまいりました構造改革をベースに回復基調にある業績をより確かなものにしていくと同時に、将来に向けた事業領域の拡大を目指すものです。この方針に基づき、当社グループは様々な施策を展開しております。

第49期（2014年3月期）の通期見通しにつきましては、期初、想定しておりました航空業界の穏やかな回復が継続している中で、期初予想の通り、売上高は107億27百万円（前期比2.5%増）、当期純利益に関しましては、4億9百万円（前期比20.5%増）を計画しております。

株主の皆さまには、今後とも格別のご理解と一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 特集

## 中期事業計画の取組み状況

当第2四半期の状況といたしましては、顧客需要が堅調に推移する中、大手航空会社によるネットワーク拡充、本邦LCCのシェア拡大などにより競争環境が変化しています。こうした中、当社グループでは、業界の成長を確実に取り込み、次の展開への布石を打つため、中期事業計画に基づき、様々な施策を加速させています。

## 中期事業計画 (2014年3月期~2016年3月期)

## 「収益基盤の強化と事業領域の拡大」

## 基本方針

イベントリスク耐性の高い筋肉質の企業体質を維持・強化し、既存事業において安定的な収益基盤を確立する。そのうえで、将来の発展に向けた事業領域の拡大に努める。

## セグメント別基本戦略

- 動力事業 拡大基調にある航空業界の成長を確実に取り込む
- 整備事業 従来の営業基盤は維持しつつ、既存業務で培ったノウハウを活用し、周辺分野への進出にも取り組む
- 付帯事業 今後成長が見込まれる、医療・福祉分野におけるフードカート、航空保安用セキュリティ機器の保守管理について、さらに経営資源を投入し、収益力の向上を目指す

## - 進捗① - 羽田・成田での設備投資の進捗

羽田空港では、2014年春に予定されている国際線発着枠の増枠へ向けたターミナルビル拡張関連の投資を順調に進めており、計画の40%程度が完工済みとなっています。成田空港においても、ターミナルビル拡張に合わせた設備更新を進めています。



羽田空港のターミナル拡張工事

## - 進捗② - 付帯事業へ経営資源を投入

当社グループでは、医療・福祉分野におけるフードカート、航空保安用セキュリティ機器の管理を今後成長が見込める領域のひとつとして位置付け、経営資源の投入を行っています。特にフードカート事業において、今年度は下期の大型病院等への販売が好調であり、通期での増収に向け邁進中です。

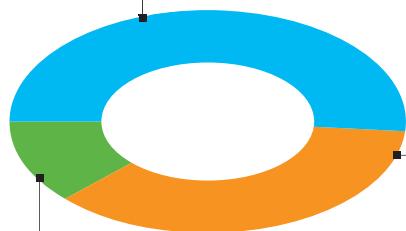


IHカート

# ひと目でわかるAGP ―事業別概況と今後の取組み―

## ◎セグメント別売上高(連結)

動力事業	2,644百万円	整備事業	1,868百万円
	<b>51.4%</b>		<b>36.4%</b>



付帯事業  
627百万円  
**12.2%**



動力事業 セグメント利益(連結) 420百万円(前年同期比+116百万円)

整備事業 セグメント利益(連結) 187百万円(前年同期比△9百万円)

付帯事業 セグメント利益(連結) 121百万円(前年同期比△18百万円)

連結営業利益 410百万円(前年同期比+76百万円)

## 動力事業

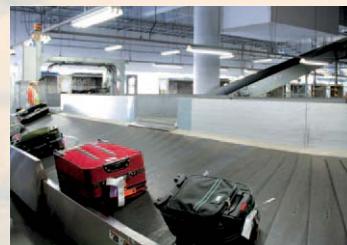
航空機への動力(電力・冷暖房気・圧搾空気)の供給や、航空機用動力供給設備の設計・施工、運用管理を行っています



GPU固定式：電力

## 整備事業

空港における建物・諸設備の保守・維持管理や、発着支援設備など特殊設備のメンテナンスを行っています



手荷物搬送設備

## 付帯事業

フードカートやGSE(Ground Support Equipment)関連製品など、航空機の運航に付帯する製品の開発および製作、販売を行っています



EH加熱カート

保温カート

## ■ 2014年3月期第2四半期累計期間

**売上高** 26億44百万円 0.5%増 

羽田空港をはじめとした国内線において、経費節減への取り組みを進めている大手航空会社向けの販売が減少したものの、訪日旅客の増加等に伴う関西空港などにおける国際線向けの販売に加え、本邦LCC向けの販売が増加したこと等により増収

**セグメント利益** 4億20百万円 38.1%増 

関西空港における減価償却費が大きく減少したこと、人件費を抑制したこと等により増益

## ■ 2014年3月期第2四半期累計期間

**売上高** 18億68百万円 1.7%増 

顧客の経費節減施策は継続しているものの、成田空港の航空会社関連施設における大口の設備更新作業の受注等により増収

**セグメント利益** 1億87百万円 4.8%減 

大口設備更新作業をはじめとして、原材料比率の高い受注案件が増加したこと等により減益

## ■ 2014年3月期第2四半期累計期間

**売上高** 6億27百万円 2.3%増 

フードカート販売が若干の減収となったものの、各空港における設備・備品販売の増加等により増収

**セグメント利益** 1億21百万円 13.3%減 

原材料費の増加に加え研究開発費、広告宣伝費等の増加により減益

## ■ 中期事業計画における今後の取組み

- ① ボーイング787型機・A380型機の就航増加に対する効果的な動力設備の増強
- ② 事業の基幹となる羽田・成田両空港の整備計画、福岡・伊丹両空港のターミナルビル再編計画への着実・効率的な対応
- ③ 動力設備の改善（低コスト化・省エネ化）に向けた技術開発と実用化の推進
- ④ 設備更新に対する設備設置形態の見直しによる投資コストの低減
- ⑤ 機動的な営業活動の推進

## ■ 中期事業計画における今後の取組み

- 営業体制の強化、保有する保守管理のノウハウと24時間運営体制の利点をアピールする積極的な営業活動の推進により、空港施設・設備の新設・更新・修繕作業に対する受注の拡大、空港外施設・物流センター等への展開を図る
- ① アジア地域の空港新設・拡張、国内外の空港民営化に対する技術支援への参画
  - ② 高付加価値業務受託に向けた技術習得の継続、計画的な人材の育成・確保による業務領域の拡大を目指す
  - ③ 業務の効率化、弾力的な人材運用等、コスト競争力強化による収益性の向上

## ■ 中期事業計画における今後の取組み

- フードカート事業
- ・ 営業体制を強化し、病院・介護施設の新築・建替え案件の獲得、買替え需要の確実な受注を目指す
  - ・ 製品開発・アフターサービス・生産体制を強化し、収益力の向上を図る
- セキュリティ機器の保守管理では、新型機器の導入・更新に伴う設置工事の受注と保守領域の拡大を目指す



プレーキクリーニングカート

## 新方式の航空機用動力設備‘Power Arm’を神戸空港で供用へ

当社動力供給事業の主力形態であるGPU (Ground Power Unit) は環境、コスト面で優れていることからニーズがさらに高まることが期待されており、新方式も含めた幅広いラインアップでこれにお応えし、動力事業の拡大を図っています。神戸空港では、「地上走行方式 (Power Arm)」の供用開始へ向けた工事等を進めています。これは2012年に開発した新方式で、従来の「地下埋設方式」「旅客搭乗橋懸架方式」に続く第3の方式として、空港グランドハンドリングの妨げとならない範囲であれば、空港の既存スペースに対し低コストで設置可能であるほか、便数が増加中であるLCCの専用スポットへの展開が期待されています。



神戸空港で稼働予定の  
‘Power Arm’

## 国内No.1のフードカート事業のさらなる成長へ向け、積極的な販売活動を展開中です

エージービーのフードカートは、“エコ” “操作性” “おいしさ” “安全” への徹底したこだわりがお客様に評価され、国産再加熱カートの納入実績で国内No.1となっています。現在、病院・介護施設の新築・建替え案件や買替え需要を捉えるべく活発な営業活動を展開中であるほか、販売促進や宣伝活動にも注力しています。その一環として、本年9月に東京ビッグサイト (有明・東京国際展示場) で開催された「フードシステムソリューション2013」に出展いたしました。クックチル対応の再加熱カート、作りたての温度で保管から配送まで可能な保温・保冷カートなど、給食業務の改善に寄与する製品を紹介し、上々のご反響をいただきました。

多くのお客様に  
ご来場いただいた当社ブース



商品カタログも  
リニューアル

# 個別財務諸表

## 第2四半期貸借対照表

	当四半期 2013年9月30日現在	前期 2013年3月31日現在
<b>【資産の部】</b>		
流動資産	5,092	5,066
現金預金	1,441	1,833
受取手形	1	0
営業未収入金	1,237	1,588
有価証券	1,291	891
製品	226	80
仕掛品	202	85
貯蔵品	400	333
前払費用	124	93
繰延税金資産	72	71
その他の流動資産	93	89
貸倒引当金	0	△ 1
固定資産	5,621	5,847
有形固定資産	4,590	4,793
無形固定資産	46	35
投資その他の資産	985	1,017
資産合計	10,714	10,913
<b>【負債の部】</b>		
流動負債	2,222	2,303
営業未払金	997	964
短期借入金	100	0
一年以内返済長期借入金	420	497
一年以内返済リース債務	117	118
未払金	175	289
未払法人税等	157	171
未払費用	240	249
年内資産除去債務	1	0
その他の流動負債	11	12
固定負債	2,634	2,880
長期借入金	1,576	1,737
退職給付引当金	904	939
リース債務	118	170
資産除去債務	34	32
その他の固定負債	0	0
負債合計	4,856	5,183
<b>【純資産の部】</b>		
株主資本	5,846	5,731
資本金	2,038	2,038
資本剰余金	114	114
利益剰余金	3,693	3,578
自己株式	△ 0	△ 0
評価・換算差額等	11	△ 1
純資産合計	5,857	5,729
負債純資産合計	10,714	10,913

(単位：百万円)

## 第2四半期損益計算書

	当四半期累計 2013年4月 1日～ 2013年9月30日	前四半期累計 2012年4月 1日～ 2012年9月30日
売上高	5,020	4,966
売上原価	4,299	4,355
売上総利益	721	610
販売費及び一般管理費	319	307
営業利益	401	302
営業外収益	34	2
受取利息	1	0
受取配当金	6	0
その他の営業外収益	27	1
営業外費用	19	28
支払利息	16	23
リース支払利息	2	3
その他の営業外費用	0	1
経常利益	417	277
特別損失	17	132
固定資産除却損	13	4
事業撤退損	—	128
減損損失	4	—
税引前四半期純利益	399	144
法人税、住民税及び事業税	154	127
法人税等調整額	4	△ 63
四半期純利益	240	81

(単位：百万円)

# 連結財務諸表

## 第2四半期連結貸借対照表

	当四半期 2013年9月30日現在	前期 2013年3月31日現在		当四半期 2013年9月30日現在	前期 2013年3月31日現在
<b>1 【資産の部】</b>			<b>2 【負債の部】</b>		
流動資産	5,571	5,666	流動負債	1,965	2,182
現金及び預金	1,846	2,362	営業未払金	571	539
受取手形及び売掛金	1,266	1,614	未払法人税等	168	200
有価証券	1,291	891	資産除去債務	1	-
商品及び製品	226	80	その他	1,223	1,443
仕掛品	202	85	固定負債	3,226	3,448
原材料及び貯蔵品	409	343	長期借入金	1,576	1,737
その他	327	289	退職給付引当金	1,496	1,507
貸倒引当金	-	△ 1	資産除去債務	34	32
固定資産	5,740	5,957	その他	119	171
有形固定資産	4,590	4,793	負債合計	5,192	5,631
建物及び構築物(純額)	2,034	2,061	<b>3 【純資産の部】</b>		
機械装置及び運搬具(純額)	1,642	1,675	株主資本	6,108	5,993
その他	913	1,057	資本金	2,038	2,038
無形固定資産	46	36	資本剰余金	114	114
投資その他の資産	1,102	1,126	利益剰余金	3,955	3,840
資産合計	11,311	11,623	自己株式	△ 0	△ 0
			その他の包括利益累計額	11	△ 1
			純資産合計	6,119	5,992
			負債純資産合計	11,311	11,623

(単位：百万円)

### 1：資産

前期末に比べ3億11百万円(2.7%)減少し、113億11百万円になりました。

#### ■流動資産

前期末に比べ94百万円減の55億71百万円

-主な要因- ↑有価証券、棚卸資産が7億29百万円増  
↓現金及び預金、受取手形及び売掛金が8億63百万円減

#### ■固定資産

前期末に比べ2億17百万円減の57億40百万円

-主な要因- ↓有形固定資産が2億3百万円減

### 2：負債

前期末に比べ4億39百万円(7.8%)減少し、51億92百万円になりました。

#### ■流動負債・固定負債

●流動負債は前期末に比べ2億17百万円減の19億65百万円

●固定負債は前期末に比べ2億22百万円減の32億26百万円

-主な要因- ↓未払金が1億11百万円減  
↓流動負債・固定負債を合算した長期借入金を2億38百万円返済

### 3：純資産

前期末に比べ1億27百万円(2.1%)増加し、61億19百万円になりました。

#### -主な要因-

↑当四半期純利益及び剰余金の配当を加減算した結果、利益剰余金が1億14百万円増加

## 第2四半期連結損益計算書

	当四半期累計	前四半期累計
	2013年4月1日～ 2013年9月30日	2012年4月1日～ 2012年9月30日
売上高	5,140	5,080
売上原価	4,353	4,379
売上総利益	786	701
販売費及び一般管理費	376	366
<b>4</b> 営業利益	410	334
営業外収益	31	3
営業外費用	19	29
<b>4</b> 経常利益	422	308
特別損失	17	132
税金等調整前四半期純利益	404	175
法人税、住民税及び事業税	165	162
法人税等調整額	△ 1	△ 83
少数株主損益調整前四半期純利益	240	96
<b>5</b> 四半期純利益	240	96

(単位：百万円)

第2四半期  
連結キャッシュ・フロー計算書

	当四半期累計	前四半期累計
	2013年4月1日～ 2013年9月30日	2012年4月1日～ 2012年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	591	684
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 283	△ 111
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 423	△ 492
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△ 115	80
現金及び現金同等物の期首残高	3,254	3,024
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,138	3,105

(単位：百万円)

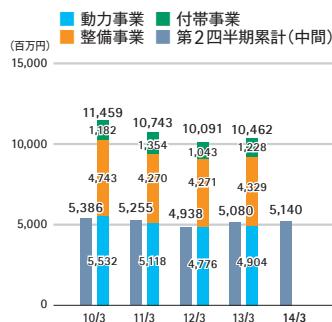
## 4：営業利益・経常利益

増収及び売上原価の減少等により、営業利益は22.7%増。  
経常利益は有価証券の売却ならびに有利子負債の圧縮による  
支払利息の減少等により36.8%増。

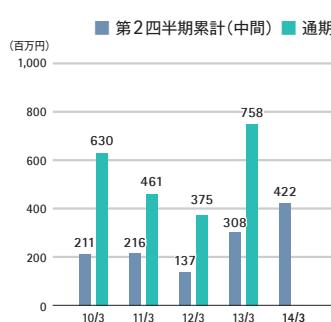
## 5：四半期純利益

鹿児島、熊本、長崎の各空港出張所閉鎖に伴い前年同期に計上した  
事業撤退損(1億28百万円)等の特別損失が大幅に減少したため、  
前年同期比148.3%増。

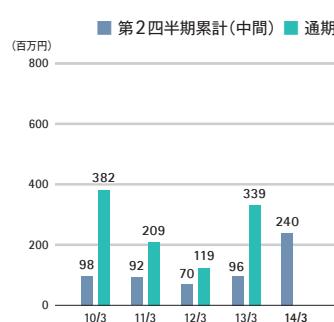
## 売上高



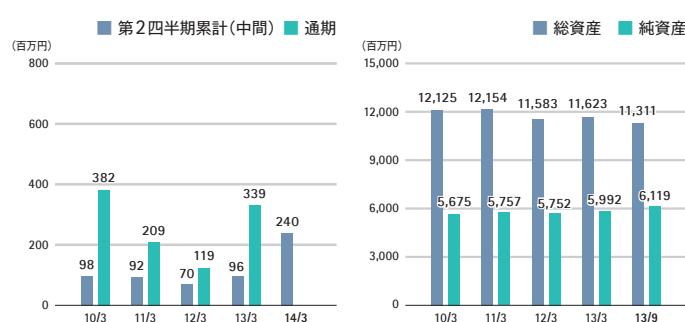
## 経常利益



## 四半期(当期)純利益



## 総資産・純資産



### 株式の状況

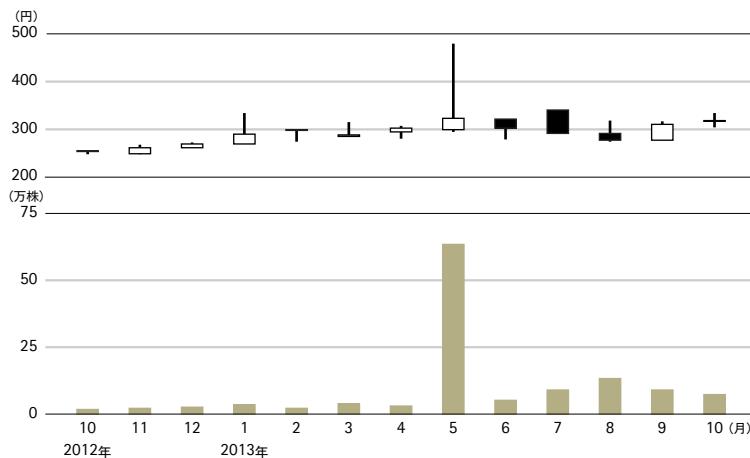
発行可能株式総数	52,000,000 株
発行済株式総数	13,950,000 株
株主数	610 名
単元株式数	1,000 株

### 大株主

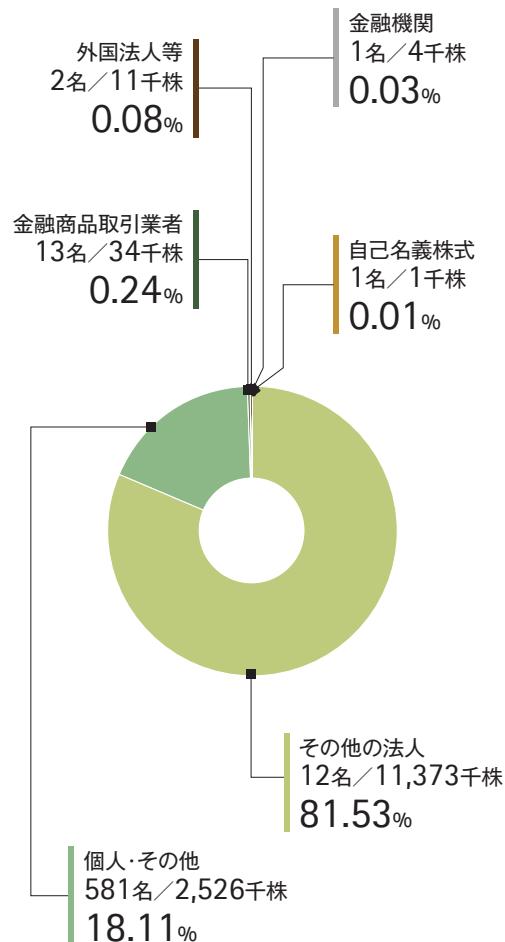
株主名	持株数	持株比率
日本航空株式会社	4,651,000 株	33.34 %
三菱商事株式会社	3,740,000 株	26.81 %
ANAホールディングス株式会社	2,793,000 株	20.02 %
エージーピー社員持株会	451,000 株	3.23 %
城 暎男	102,000 株	0.73 %
栗原工業株式会社	86,000 株	0.61 %
高橋 知子	72,000 株	0.51 %

※持株比率については、自己株式(1,857株)を控除して算出しております。

### 株価及び株式売買高の推移 (月足)



### 株式の分布状況



## 会社概要

商号	株式会社エージーピー AGP CORPORATION
本社	〒144-0041 東京都大田区羽田空港一丁目7番1号 TEL. 03-3747-1631 FAX. 03-3747-0707 E-mail info@agpgroup.co.jp
最寄駅	東京モノレール羽田線 整備場駅 下車3分
設立	1965年12月16日 ／日本空港動力株式会社設立 2000年9月1日 ／株式会社エージーピーに商号変更
資本金	20億3,875万円
社員数	596名(連結)／166名(個別) (2013年9月30日現在)
会計監査人	新日本有限責任監査法人

## 役員

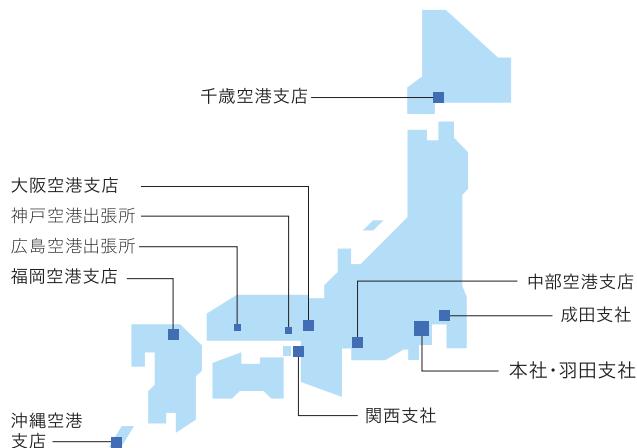
代表取締役社長	山口 栄 一
常務取締役	早川 正 英
常務取締役	生形 茂
常務取締役	小林 正 樹
取締役	田中 和 之
取締役	小澤 秀 之
常勤監査役	金子 晋 也
監査役	長谷川 正 人
監査役	浅木 純
監査役	佐伯 誠 治

## エージーピーグループ(連結子会社)

株式会社エージーピー沖縄	株式会社エージーピー開発
株式会社エージーピー関西	株式会社エージーピー北海道
株式会社エージーピー九州	株式会社エージーピー中部

## ネットワーク

本社	- 東京都大田区羽田空港一丁目7番1号 TEL.03-3747-1631 FAX.03-3747-0707
成田支店	- 千葉県成田市三里塚御料牧場1-1 (日本航空成田第一ハンガー内) TEL.0476-32-8775 FAX.0476-32-8779
羽田支店	- 東京都大田区羽田空港三丁目1番2号 TEL.03-5757-9447 FAX.03-5757-9191
関西支店	- 大阪府泉南市泉州空港南1番地 (関西国際空港格納庫内) TEL.072-456-6101 FAX.072-456-6107
千歳空港支店	- 北海道千歳市美々 (新千歳空港内) TEL.0123-46-5858 FAX.0123-24-9213
中部空港支店	- 愛知県常滑市セントレア一丁目1番地 (中部国際空港内) TEL.0569-38-0286 FAX.0569-38-8165
大阪空港支店	- 大阪府豊中市蛍池西町三丁目555番地 (大阪国際空港内) TEL.06-6856-7326 FAX.06-6855-9490
神戸空港出張所	- 兵庫県神戸市中央区神戸空港 4-1 TEL.080-5075-5932
福岡空港支店	- 福岡県福岡市博多区上臼井柳井348番地 (福岡空港内) TEL.092-621-9124 FAX.092-629-1974
広島空港出張所	- 広島県三原市本郷町善入寺64番31 (広島空港内) TEL.0848-60-8311
沖縄空港支店	- 沖縄県那覇市鏡水150番地 (那覇空港内) TEL.098-858-0291 FAX.098-859-4229



## ホームページのご紹介

» <http://www.agpgroup.co.jp/>

当社ホームページでは、会社概要、IR情報、製品・サービスや採用情報など様々な情報を掲載しております。

特に株主・投資家の皆さまに向けましては、決算短信、IRハンドブック等のほか、最新のIRニュースや株価情報なども掲載しております。ぜひご覧ください。

また皆さまのご意見・ご要望もお待ちしております。



## 株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月中
同総会権利行使株主確定日	3月31日
利益配当金支払株主確定日	3月31日
基準日	毎年3月31日 そのほか臨時に必要なときは、あらかじめ公告いたします。
公告掲載新聞	日本経済新聞
株主名簿管理人 (特別口座の口座管理機関)	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (同送付先)	同社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部 電話:0120-232-711(通話料無料)

## INFORMATION

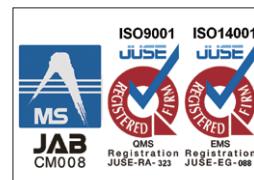
### 株式に関するお手続きについて

- (1) 株券電子化に伴い、株主さまの住所・氏名等の変更、買取請求、その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。  
なお、未受領の配当金及び株式事務に関する一般的なお問い合わせにつきましては、株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。
- (2) 「特別口座※」に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関(兼 株主名簿管理人)である三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。

※「特別口座」株券電子化実施日において「株式会社証券保管振替機構(ほふり)」をご利用でない株主さまの権利を確保するために、当社が当該株主さまの名義で開設した口座です。

 株式会社 エージーピー

〒144-0041 東京都大田区羽田空港一丁目7番1号  
TEL. 03-3747-1631 FAX. 03-3747-0707  
URL: <http://www.agpgroup.co.jp/> E-mail: [info@agpgroup.co.jp](mailto:info@agpgroup.co.jp)



本冊子はリサイクルペーパーを使用しております。